

令和4年度英語教育改善プラン推進事業【鹿児島県】

■ 児童生徒の発信力強化のための効果的な指導・評価

□ 学校種間連携

■ 英語担当教師の指導力・英語力の向上(小学校担当教師の指導力向上)

当該地域における英語教育の課題

①生徒の「話す・書く力」の向上

授業中における、生徒の言語活動時間が少ない。その要因として、言語活動に対する理解が進んでいないことや講義型の授業展開が依然として多く行われていること等が考えられる。授業中における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合 高30.4%(50.3%)

②授業中における、英語担当教員の英語使用状況

講義型の授業形態が依然として行われていること、その中で、教員が話す時間が多く、解説等に時間が多く割かれていることが考えられる。

英語担当教員の英語使用状況（「50%以上」の割合）高35.4%(46.0%)

【出典】R3英語教育実施状況調査より：本県（全国平均）

<実施内容>

◇ 研修協力校における生徒の発信力強化研究【高】（課題①・②）

5校の研修協力校において、大学の教授等が年間5回程度指導にあたり、生徒の発信力を高めるための授業改善を行い、生徒の発信力向上を図った。5校のうち3校が「話すこと」、2校が「書くこと」に焦点を当てて実施した。

「話すこと」に特化した高校では、英語で自分の意見を述べる力の向上をポイントとした。ある話題に対して自分の意見を述べる際に、教科書の表現を用いたり、身につけた語彙を駆使して表現したりするように指導し、音読等を多く行い表現に親しむよう工夫を行った。

「書くこと」に特化した高校では、内容のつながりや段落構成の仕方を理解させ、自分の意見を表現する力の向上をポイントとした。授業中に教科書を利用して段落構成を確認し、内容のつながりなども確認する指導を繰り返す工夫を行った。

<成果指標に基づく成果及び検証（1）>

■ 課題①に対する成果検証

5校の研修協力校において、「話すこと」に特化した高校では、1年生を中心に授業改善を行い、授業中の英語による言語活動の向上が見られた。音読を用いて授業改善を行った研修協力校では、生徒がリテリングをする際に、繰り返し音読した教科書の表現を用いて自分なりにまとめることができたようになったと感想を述べている。

「書くこと」を主体とした研修協力校においても、最初の原稿と6か月経った後の原稿では内容においても、語数においても大きな改善が見られた。研究授業においては、自分の好きな絵画を説明し、さらにその絵画が好きな理由を自分の経験と結びつけて書くという説明文と意見文を統合する難易度の高い英作文を書いた。また、協働的作文活動を実践した高校では、英作文に対する生徒の抵抗感が減少し、書く語数も上昇していることがデータからも検証できた。

■ 課題②に対する成果検証

5校の研修協力校では、毎回英語使用を基本とし、わかりやすい英語で伝えることとしており、授業における教師の英語使用状況は上昇した。鹿児島県の英語教員に対する様々な研修においても、常に英語を使用し研修を行っている。

<成果指標に基づく成果及び検証（2）>

■ 課題①に対する成果検証

令和4年度英語教育実施状況調査では、研修協力校において、スピーキングテスト及びライティングテストの実施はどの科目でも両方行われており、教員の意識の変化も見られた。その結果、研修協力校5校全てが、英語教員による授業中の英語使用状況も50%以上となった。生徒においても自分の意見の発表や英作文への抵抗感が減少したという感想も見られた。

■ 課題②に対する成果検証

英語教員の授業中における英語使用状況（50%以上）

高：29.0%（前年度と比較して6.4pt down）

3年生担当の英語教員の英語使用が減少している傾向が顕著に表れている。

- ・英語コミュニケーションⅠ（31.8%）
- ・論理表現Ⅰ（34.8%）
- ・コミュニケーション英語Ⅱ（35.7%）
- ・コミュニケーション英語Ⅲ（14.2%）
- ・英語表現Ⅱ（16.2%）

本県英語教員で高校3年生を担当している職員に聞き取りを行ったところ、教員の英語使用に関して、大学受験を意識し、講義形式の授業が増えているという回答が多かった。

<今後の方向性>

■ 課題①に対して

本県英語教育改善プランの研修協力校においては、生徒の授業中における英語での言語活動は増加していると言えるが、県下全体への普及効果が少ない。今後は、鹿児島県総合教育センターと協力し、授業の映像や、指導案、パフォーマンステストの実際などをホームページ等で公開する。また継続して、悉皆研修等で言語活動を増やすための活動等を共有する。さらに、各高等学校に対して外部検定試験の受検を奨励するとともに、パフォーマンステストによる生徒の発信力の正しい評価を実践するよう促す。

■ 課題②に対して

生徒の4技能5領域の評価を実践するために、生徒の言語活動を増やす必要があること、さらに、生徒の言語活動を増やすには、教員による英語使用の増加が不可欠であることを、様々な研修を通して伝えていく。

成果普及

○令和4年度鹿児島県英語教育改善プラン

<https://sites.google.com/view/kagoshima-english-eduplan2022/>